

ミャンマーの縫製工場に高品質な縫製生地を！

—愛知県一宮市の繊維加工技術がミャンマーへ進出—

国際協力機構（JICA）は11月14日、「中小企業連携促進基礎調査」においてツヤトモ株式会社（代表取締役小栗由裕）が提案する「繊維産業への川中工程（高圧染色・仕上げ加工・難燃加工）技術・設備導入による事業調査（中小企業連携促進）」（ミャンマー国）を採択しました。

ミャンマーにおいて縫製品は天然資源、農産物に次ぐ主要な輸出品となっており、近年日本でもミャンマー製の縫製品が多く流通しています。しかし、2000年代半ばまで行われた欧米の経済制裁の影響でミャンマーの縫製産業は停滞し、縫製作業は自国で行えるものの、縫製生地は国外から調達しているのが現状です。



ツヤトモ株式会社（愛知県一宮市）



生産された製品は主に自動車内装表皮材やカーテンとして活用されている

ツヤトモ株式会社が位置する愛知県一宮市は紡績から染色、縫製まで行う「繊維の町」として古くから繁栄してきました。同社は、繊維産業の「川中工程」と呼ばれる糸の高圧染色や仕上げ加工、難燃加工において高度な技術を有しており、それらのノウハウおよび施設をミャンマーに導入することで同国の繊維産業の高付加価値化を提案しています。また、設備の近代化に伴い必要となる熟練労働者の育成に関しても、今回の調査を通じ検討することとしています。

この調査は、我が国の中小企業を対象とした「中小企業連携促進基礎調査」として実施されます。本スキームは、優れた製品や技術力を有する中小企業が途上国に進出することによる開発課題解決の可能性及びODA事業との連携可能性を検討するためのもので、検討に必要な基礎情報の収集と海外展開事業計画の策定を目的としています。2014年度は本年7月に公示を行い、61件の応募のうち10件が採択されました。今後の契約交渉を経て契約に至ったものから、順次調査を実施します。